

武蔵野市市民活動推進委員会

第8回委員会 議事要旨

日時：平成29年2月13日（月）午後3時から午後5時

場所：武蔵野市役所812会議室

出席委員：田中委員長 竹内副委員長 市川委員

高橋委員 千種委員 寺島委員 坂本委員

佐々木委員

1 開会

―事務局より手持ち資料確認

2 議事

(1) 武蔵野市市民活動促進基本計画改定計画（案）について

―事務局より資料1をもとに説明を行う。

(質疑・意見交換)

■委員長

- ・改定計画（案）について、意見交換をしたいと思う。何か気づいた点はあるか。
コーディネートを担う人材に求められる力量について、「創造性・企画力」のところに「つないでいく」というところがあるが、これは何をつなぐということだったか。

■委員

- ・「創造性・企画力」のところでは、「つなぐ」を入れてしまうと、「調整力」と「地域をつなぐ力」と、意味合いが何か似てきてしまう気がするので、創造してつくり上げていく力という点を強調した方がよいと思う。

■委員長

- ・企画力もあるので、創造性を持って企画していくということだと思う。新たな発想を持

って、つくり上げるというのは何をつくり上げるのか。

■委員

- ・ここに書いてあるとおりにすべての力量があって、地域をつないだり、創造性があったり、企画力があったり、調整力があったり、リスクマネジメントがあったりという器用な人はなかなか少ないと思う。その中の幾つかがあれば、まあいいかなというようなところで少し考えていった方がよいのではないかと思う。

■委員

- ・「つなぐ」というのは、基本的には人と人をつなぐ、組織と組織をつなぐということを、頭にインプットされているので、人と人をつなぐ力量という中で、こういうものがあるということがわかればよいと思う。

■副委員長

- ・「創造性・企画力」は必要だが、コーディネーターは企画を立てたりしないのかもしれない。それは、アドバイスはするということだと思うので、つくり上げるのを助ける力だと思う。

■委員長

- ・今まで出た意見を総合すると、「新たな発想を持ってコミュニティや活動などの創造を促す力」というのはどうか。

■委員

- ・「促す」はいい言葉だが、「促す」も調整力で使われている。やはり、似たようなことだから難しい。

■副委員長

- ・コーディネーターはどちらかというと手助けする人だと思う。

■委員

- ・「コミュニティや活動などを作り上げたり、サポートする力」や「コミュニティや活動などの創造を助ける力」といった形で、「助ける」もしくは「サポート」といった部分を加えるとよいと思う。

■委員長

- ・コーディネーターが自らリーダーとして何かをつくっていくということではなく、つなぎながら、うまくいくようにサポートしていくということだと思う。「サポート」か「助ける」に力点を置いて、「コミュニティや活動などの創造をサポートする力」あるいは「助ける力」ということでよいと思う。
- ・非常に丁寧な議論をしてきたと思うので、大分文章も練れてきたし、市民から見て実感が湧きやすい表現になってきたのではないかと。そして、委員もそれぞれの立場で活動されている方なので、そういう経験からそれぞれのご意見やイメージを出していただいて、うまくまとめられたと思う。
- ・次は、来年度以降の計画推進についてということで、議論していただきたい。

■事務局

- ・来年度以降の推進に向けて、皆様のご意見をいただきたい。「VII. 改定計画の実行に向けて」の1-1「進捗管理の目的」に記載しているとおり、計画をどう実行していくかが大切になると考えている。来年度以降の参考にしたいと考えているので、どのように計画を推進していくかという点について議論していただき、意見をいただきたい。

■委員長

- ・この委員会は、計画を策定して終わりではなく、今後も続くということで市民活動推進委員会という名称になっている。来年度以降どのような形でこの計画を進めていったらいいかということについて、自由に意見をいただきたい。
- ・「実施計画」2-4「市民活動に関する学びの機会の提供」③「地域の課題を学ぶ機会の充実」とあるが、今、武蔵野市で抜け落ちている部分ではないかと思う。プレイスの市民活動推進の講座は市民活動のノウハウを学ぶものであり、生涯学習スポーツ課の事業についても、地域課題を学ぶというよりは、教養として学ぶという感じが強い。また、

下水道課が行っている水の学校などは、地域の課題だとは思いますが、担当課がそれぞれやっているという状況である。

- 行政と市民と一緒に学ぶという点は、とても大事なポイントであり、地域フォーラムは、行政も参加しながら意見交換すれば、学びの場と言える。ただ、参加している人は、学ぶというより、何かアイデアを分かっことを中心に考えている方が多いと思うが、テーマによっては、基礎的な知識を共有し、その上で意見交換することも必要かもしれないので、地域フォーラムを学びの場として位置づけていくと、さらにいいものになるのではないか。
- そういったものを実現していくためには、この市民活動推進委員会が中心となりながら議論することも必要だろう。
- もう一つは、この委員会だけでは、人材にも限りがあり、アイデアも限界があるので、場合によっては企業も、あるいは大学も入ってもらいながら、意見交換して計画を具体的に進めるような、企画の場があってもいいと思っている。

■委員

- 市民活動促進基本計画では、進捗管理の仕組みについて、明確にできていなかったもので、今回の委員会において、評価表を作成した。したがって、進捗管理の仕組みとしては、この評価表などをベースとした形で考えるということが、今回の委員会としてのある一定の成果であると認識している。
- 加えて、これからの評価については、新しく項目を入れたり、別の項目に切りかえていくということが出てくると思う。そうした形で一定の評価をしていくことが、今後の展開の仕方であると考えている。

■委員

- 武蔵野プレイスで実施している事業に関しては、実務的な支援の要望が団体からは多いので、そういった支援が強くなっているが、今後は、交流や意見交換の場といった広がりをつくっていく必要があると感じている。

■委員

- それぞれの事業の評価について、会議の場で資料を見て議論するだけでは、議論したこ

とが生きてこない気がする。

- ・委員会の場に事業を実施している担当に来てもらって、ディスカッションしたり、報告を受けたり、問題点がなかったかといったことを具体的にヒアリングしたりすることによって、ポイントが合って、次の展開が見えたりすると思う。こういった場で、重点施策の方向性に沿っていつているかというところを突っ込んで話ができたら、おもしろくなると思う。

■委員長

- ・プレイスの市民活動フロアの運営協議会では、毎回事業の報告を受けて、振り返りながら評価をしているが、それが、重点施策の重立った事業についてできればいいという感じである。

■委員

- ・各分野で行っている大きな事業の現場に行って、活動している市民活動団体にヒアリングをするということも大切だと思う。

■委員長

- ・評価表にある事業のうち目ぼしいものでも、委員で手分けして見に行って報告し合うということもいいかもしれない。

■委員

- ・今回の計画の特徴として、3つの重点施策を設定したところが大きいと思っている。そうした意味では、その重点施策の評価方法と、それ以外の部分の評価方法を変えていくということは、手法としてあると思う。

■委員長

- ・重点施策については、事業を見に行くとか、担当に来てもらって議論するというように、少し踏み込んでいくことができるといいかもしれない。

■委員

- ・「これからの地域コミュニティ検討委員会」の議論では、それぞれのコミセンがスキルアップしていくためには学びの場というのが必要だということで、「コミュニティ未来塾」がはじまっている。そこに、防災、福祉などの地域の様々な団体の人たちが加わって講座ができるといいと思っている。
- ・地域フォーラムにしてもコーディネート役にしても、コミュニティセンターは既にできていると思うので、このまま、地域のコーディネーター役としてやっていけばいいと思っている。

■委員長

- ・今の施策体系との関係でいくと、27ページの「コーディネート機能の強化」の中の①のコミュニティセンターや③の市やプレイス、市民社協の連携が、特にコミセン関係で充実していくといいという感じだと思う。そして、ここの場に情報を持ってきていただき、みんなで共有していくというのができるといい。関係する人がそれぞれ情報を持ってきてということも、あっていいのではないかな。

■委員

- ・自身の団体の活動が手いっぱい、出ていく余裕がない団体もあると思うが、そういった人たちが集まれる機会があると、そこに委員会が出ていくことにより、話ができいいと思う。

■委員

- ・プレイスの市民活動団体の交流などは、そこに行って何をしたいとか、誰が来るから自分のところとどうつながるとかというイメージがなかなか湧かない部分がある。「TAMACOM」などの場は、そこで自分たちがプレゼンをすることによって、いろんな人たちが聞いていて、それが何かつながってくるだろうから、出たいとかということがあると思う。
- ・交流の仕方、見せ方、自分たちの活動を支援してもらえる何かがある、出会いがありそうだな、他業種の方たちが集まることによって、何か成果になるんじゃないかと思われるような多様な交流の場があるといいと思う。

■委員長

- ・交流は、ある意味で手段である。「TAMACOM」にしても、それぞれの団体の目的があつて来て、交流することでさらに効果がある。交流を目的にした集いでは、集まりにくいと思う。

■委員

- ・昨年の12月にNPO補助金交付団体の交流会を初めて開催した。NPO補助金を受けていることから、参加をしてもらったということはあつたが、結果としては、NPO団体同士で共通する課題に対して話をしている、他の団体と話ができたのがよかったので、こういった場がもっと多くあったほうが良いという意見をもらった。
- ・ただ、今回の場合は補助金交付事業の中で参加してもらったが、回数を増やしたら、実際どこまで集まるのか、逆に負荷になってしまうのでは、ということがあるので、なかなか交流のための交流というのは難しい部分があると思う。

■委員

- ・交流というのはあくまで手段なので、最終的にどこに目的があるかということが見えてないといけない。「TAMACOM」の話もそうだが、起業したり、ビジネスやNPOの支援をしてほしいという目的があるから、そこへ集って、プレゼンをする。
- ・そういったものを市民活動の中でも行って、それに市民が集まって、何か新しいものができていくということができるといいと思う。

■副委員長

- ・自分自身も様々な委員などをやっているが、実は武蔵野市の全体像が、いまいづつかめないところがあるので、武蔵野市はどんな場所で、どんな課題があつて、どんな人がどんなふうに参加しているといったことが、武蔵野市民入門みたいな形でわかりやすくなっているといいと思う。

■委員

- ・プレイスでやっている市活人（しかつんちゅ）展を、プレイスだけでなく、コミセンや小学校などにも移動するような形で回していくと、こういう活動をしている人がいると

いうことをわかりやすく知ってもらえるのではないか。

■副委員長

- ・各コミセンにディスプレイを設置して情報を流すというのはどうか。

■委員

- ・市政センターなどでは、お知らせが見られるようなディスプレイシステムをつけていた時期があったと思う。市役所の入り口にも昔ディスプレイがあったが、今はなくなっている。

■副委員長

- ・三鷹市では市民活動のポータルサイトがあって、登録した方が、お互いの活動の悩みなどを活発に情報交換している。

■委員

- ・市民活動のポータルサイトは武蔵野市でもやったことはあるが、あまり活性化しなかったというのが実状である。

■委員

- ・三鷹市の場合は、行政が主というより、IT業界の人たちが中心になって、自分たちで集まって、地域の課題をITで何とかできないかというところから、サイトをつくっている。コミュニティビジネスのような形になっているから活性化しているが、行政がサイトをつくってということだと、方向性が違うと思う。
- ・そういったものを立ち上げるのであれば、市が呼びかけて、IT業界の人たちと一緒に作り上げていくということが必要だと思う。

■委員長

- ・そういったものを参考にしながら、武蔵野市としても何か良い方法を考えないといけない。
- ・これで委員会としての議論は終わりにになるので、最後に、各委員から市民活動推進委員

会にかかわった感想をいただきたい。

■委員

- ・計画や計画見直し的时候には現実性のある計画にしたいと考えている。もちろん計画なので、多少夢の部分や理想の部分があるのも必要だが、できるだけ現実性のある計画にしたいと思っている。だから、シンプルに書いて、皆さんが達成しやすいような計画をと思っている。計画はつくるのが目的ではなくて、実際に行っていくということが、大事なことであり、それを思いながら今回この計画に臨んだ。ありがとうございました。

■委員

- ・何となく仲間内で集まって、始まった活動の流れに乗ってここまで来てしまったので、改めて市民活動はこういうものだということを、文字で読むことができ、いい機会だったと思う。ありがとうございました。

■委員

- ・昨年の4月に前任を引き継ぐ形で入ったので、最初の段階で皆様の議論についていけない部分があった。
- ・この委員会では、評価の部分をもっと現実的なことに振り向けていくためということになり議論していただき、評価のシステムなどもつくり上げていただいた。
- ・これをいかに実施していく、しかも効果的に実施していき、さらに次の計画につなげていくかということが、この5年間の課題になると思っている。市民活動推進委員会はこれで終わるわけではなくて、この後も続く委員会なので、これからも引き続き協力いただきたい。

■委員

- ・この委員会に出席して、生涯学習が市民活動と親和性があって、そこからまた発展していくという気づきがあったので、学びのサイクルを通して市民活動が回っていくという展開になったらいいというふうに思っている。

■委員

- ・公募で応募して、委員会に参加した。ここに来たことで、自分自身様々な学びや気づきがあったことによって、自分自身のやりたいことにトライすることができた。そして、市がこんなことを思っているのだということに基づいて、その課題を解決するために自分はどうすればいいかということを考えることもできたので、私の活動が、ものすごく大きな広がりを持ってきたと思う。
- ・もし委員会が続くとすると、公募委員は増やしたほうがいいと思う。何かやりたい、何か意見を言いたいという思いがあって、こういう場に来ると思うので、新しいことを提案したりという活性化につながる気がする。

■委員

- ・最初のうちは難しい言葉が羅列で、何をやっていいのかわからなかった。やっていくうちに、やっとわかりかけてきたところでもう終わりになってしまう。
- ・長いこと地域のいろんなことをやってきて、武蔵野市では皆さんが頑張っているんだということがわかったし、やはりこういう活動をもっと長く続けていくために、こういう仕事も大事だなということもわかったので、ここに来ることができてよかったと思っている。ありがとうございました。

■副委員長

- ・大学と地域をつなぐというような観点からかかわらせていただいたが、学生は、地域に入り込んでいろいろやってくれている。ただし、そういうことは、あまりよく見えないし、大学としてどういうふうに把握したり、かかわっていくようにしたらいいのかというところは、ボラセンもできたばかりなので、暗中模索状態というところもある。たくさんさんの活動があって、そこに学生が行って、活動に参加させていただくことでいろんなことを学んで、また大学に戻ってきて次の後輩に伝えるというサイクルになっていて、ほんとうに市の方にはお世話になっているということを改めて感じた。
- ・今後も何か機会があれば、伝えて、お互いの間をつないでいくような役割が果たせればと思っている。ありがとうございました。

■委員長

- ・この委員会は、メンバーがそれぞれの立場で市民活動にかかわっている方なので、とても実質的な議論ができて、とてもよかったと思っている。
- ・内容的には、13ページからの新たな方向性がポイントだと思う。市民活動は、ゼロから1に行くのが大変だとよく言われるので、ゼロから1のところを、1番の市民活動への参加を促すというところで位置づけたのがよかったし、コーディネート機能が大事だと言われながらも、あまり具体的な文言がこれまでなかったのが、これもきちんと表現できたのはよかったし、今回はコミュニティ政策との連携を1つの柱にしたので、これもよかった。
- ・それから、行政の役割は当然書くべきところだが、学習というところで1つの柱ができたのがよかったし、行政職員と市民と一緒に学ぶというところで最後締めくくっていることが、よいと思うので、これをぜひ実現していきたい。
- ・自分自身で市民活動をやっている、行政と市民の間に壁があるのはいつも感じているので、そこをどうやって橋渡しするかがとても大事なので、また進捗管理の中で心がけていきたいと思っている。長い間、ありがとうございました。

3 事務連絡

―事務局より事務連絡

4 閉会

以上